

平成29年度我孫子市男女共同参画審議会 会議概要

- | | |
|------------|---|
| 1 会議の名称 | 我孫子市男女共同参画審議会 |
| 2 開催日時 | 平成29年11月15日(水)午前10時～11時 |
| 3 開催場所 | 我孫子市役所分館中会議室 |
| 4 出席者 | 大村芳昭委員(会長)、柳川眞佐子委員(副会長)、柚木理子委員、横田光夫委員、栗原千鶴委員、池田尚史委員、福島慎太郎委員、市之瀬啓之委員、吉田公子委員、以上9名
(事務局)松谷秘書広報課長、小池男女共同参画室長、上林、大島 |
| 5 欠席者 | 石井美枝子委員、平山亮子委員、以上2名 |
| 6 議題 | 1 平成28年度実施事業実績報告について
2 平成29年度事業について
3 男女共同参画プラン改定に伴う市民意識調査の実施について |
| 7 公開・非公開の別 | 公開 |
| 8 傍聴人 | なし |

9 会議の内容

開会(10時)

(1) 平成28年度実施事業実績報告について

全85事業のうち、担当課評価ではa(成果や効果があった)が55(昨年度35)事業、b(現状どおり)が29(同49)事業、c(成果や効果がなかった)が1(同1)事業となった。

第二次プランにおける2つの重点施策「(1)政策・方針決定過程への女性の参画を図る」及び「(10)男女の家庭生活、地域生活、職場生活等の調和を図る」から、以下の事業について説明した。

事業No.1 審議会等への委員の登用

事業No.2 行政委員会への女性委員の登用

事業No.3 市女性管理職の登用

事業No.5 自治会、まちづくり協議会等における女性の参画の働きかけ

事業No.6 自主防災組織における女性の参画の働きかけ

事業No.61 学童保育・あびっ子クラブの運営

事業No.64 待機児童ゼロの継続的な取り組み

事業No.70 あかちゃんステーションの整備

事業No.78 育児休業・介護及び看護休暇の男性取得

事業No.79 ボランティア休暇の取得促進

委員からの主な意見と事務局の回答

【柳川委員】事業No.37、38に関連して、東日本大震災以降、防災分野における女性の視点の重要性が全国的な課題となっている。市の防災計画策定には女性が関わっているか。

＜事務局＞「我孫子市地域防災計画」は市民危機管理対策会議で策定され、避難所運営への女性参画や女性の視点によるさまざまなニーズに対応した運営体制について明記されている。委員総数41人のうち女性は5人。関係団体などへのいわゆる「あて職」のため、男性が多くなりがちだが、女性の参画を促すよう、啓発を図っていく。

【大村委員】a～cの評価指標は、わかりやすいが注意も必要。例えば休暇取得者数で、昨年在1人、今年がゼロだとすると、評価が下がってしまう。しかし長期で見れば上昇傾向であったり、高い水準を維持し続けている場合もあるのではないか。中長期的な視点からの評価も大切である。

＜事務局＞来年は計画期間の最終年にあたるので、10年間での変化についてもみていきたい。数字で表せない部分はコメントとして書き込んでいく。

(2) 平成29年度事業について

事務局からの説明

今年度も後期実施計画に基づき全85事業を継続実施している。そのうち終了した男女共同参画室の啓発事業について説明した。

- ・講演会「ポストイクメン時代 男の生き方もハーフ&ハーフで」6月24日にアビスタで開催、講師：田中俊之さん、参加47人
- ・同「自分に『いいね！』とらわれない生き方をめざして」10月21日に市民プラザで開催、講師：柚木理子さん、参加50人
- ・情報紙「かがやく」第33号「我孫子からはばたけ！ 農業女子」（9月発行）
- ・同32号「女性の視点で防災力」（昨年度末発行）、ほか

委員からの意見 なし

(3) 男女共同参画プラン改定に伴う市民意識調査の実施について

事務局からの説明

来年度、次期男女共同参画プラン策定の参考とするため市民対象の男女共同参画アンケート調査を実施する。同調査は平成8年に次いで2回目。設問は比較対照しやすいよう、概ね国などの調査に、項目や選択肢を合わせた。市の前回調査と合わせたものもある。

- ・対象：市内在住の男女各1500人（住民基本台帳から無作為抽出）
- ・日程：今月中に発送、来月前半で回収、集計・分析1～2月

委員からの主な意見と事務局の回答

（前回の意識調査について）

【大村委員】前回の意識調査を見ることはできるか。

＜事務局＞全体の記録が残っていないが、第一次プランの巻末に概要が掲載されているので後日送付する。

(問16について)

【柳川委員】問16の選択肢の中で「夫婦ほぼ同じ」の意味がわかりづらい。

【大村委員】「夫婦ほぼ同じ」には「自分のことはやっている」と「共同してやっている」の両方の意味合いがあり、一方だけを想定した人が「該当なし」の回答に流れてしまうのはもったいない。注釈を入れるのはどうか。

＜事務局＞回答者に極力負担をかけない方針であり、説明文は短くしたい。直観的に感じたところで回答してもらっても、全体としての傾向把握に支障はないと考えている。

(問10について)

【吉田委員】実際に回答してみて、問10に最も悩んだ。女性が増えるとよい分野は全てだと思ったが「3つを選んで」と限定されているためである。結局1つしかつけられなかった。また、各分野で女性が増えるとどんなよい効果があるかについて、日ごろの情報が不足していると思う。回答にあたって「もし身近な自治会長が女性だったら」と考えてみたが、想像できなかった。

【大村委員】ほかにも3つ選択する質問がいくつかあるが、選ばれなかった項目が必要ないとか、ニーズが少ないとかいうことでは決してない。分析にあたって気を配ってほしい。

【市之瀬委員】3つに限定すると、世の中でみんなが大事と言っているからということで「国会議員」に選択が集中してしまうのではないか。その結果、市民にとって身近で、一番関わりが深いはずの「自治会長、町内会長」が選ばれない可能性が考えられ、残念である。

【大村委員】選択肢が、国から始まり、地域が後になっている。上から順番に3つで決まってしまうことはないだろうか。

＜事務局＞3つに絞って選択してもらうことにしたのは、傾向がはっきり表れるように考えたもの。また、選択肢の項目や順番は、国の調査と比較しやすいよう、極力それと合わせるた。了承願いたい。

(問7について)

【市之瀬委員】同居している要介護者に限定した質問となっているが、別居している親の介護などは含まないのか。今は遠距離介護も多い。介護している人の総数を把握する必要があるのでは。

＜事務局＞別居の介護者についても含まれるよう、質問文を修正する。

(問4について)

【吉田委員】選択肢の「3. 親と子(核家族)」の「核家族」が付ける意味がわからない。

【大村委員】シングルマザーの場合は親と子であっても核家族ではないと思うが、そういう世帯はどこに含まれるのか。

【栗原委員】「3. 親と子」と同様に、「4. 親と子と孫」というのもわかりづらかった。

＜事務局＞「核家族」の文言は削除して「3. 親と子」のみに修正する。そのほかは外から見た家族構成で考えてもらえればわかると思う。回答者の年代が幅広いので多様な立場がある。これ以上説明を加えるとかえってわかりづらくなる。なるべくシンプルに表現して、受け取った方の判断に委ねることとしたい。

(問2について)

【横田委員】年齢層は70歳以上でまとめずに、70歳～79歳と80歳以上に分けてはどうか。仕事の経験から、70代と80代は考え方がかなり異なってきたと思う。答える側も一括りにされてはあまりよい感じがしない。いずれも人口も増えている層でもある。

【柳川委員】同感。70代は団塊の世代、その上の世代とはかなり違うと思う。

＜事務局＞一般的に国・県なども概ね70歳代以上としているので、このままとしたい。

【大村委員】議案は全て承認されたとし、議事を終了する。事務局には議案3の意識調査について今回の意見を踏まえ、一部文言修正について検討するよう依頼する。結果は一任する。

閉会(11時)